

4 学年 4 組 学級活動(1) 指導案

日 時 令和〇年〇月〇日(〇)11:30~12:15

学校名 小学校

対 象 4年4組 34名

授業者 〇〇 〇〇

会 場 教室

1 議題 「サプライズパーティーをしよう」

2 学級活動【1】「学級や学校の生活づくり」の第3学年及び第4学年の評価規準と目指す児童像

観点	ア よりよい生活を築くための知識・技能	イ 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	ウ 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。	楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。
目指す児童の姿	①話し合いの準備を計画的に進める方法について理解している。 ②計画的な話し合いの進め方やまとめ方について理解している。 ③話し合いで決定したことについてみんなで実践することの意義や、方法について理解している。 ④集団活動を通して、友達と共に活動することの楽しさ、よさに気付いている。	①議題や提案理由に合った意見を考え、書いている。 ②議題や提案理由を意識して自分の考えをもち、話し合いの活動計画について考え、準備している。 ③今までの活動経験を踏まえながら、自分たちの思いを伝えるためにどのような工夫がよいかを考えたり、発言したりしている。 ④多くの工夫の中から、多様な意見のよさを生かしながら話し合いを進めている。 ⑤めあてを意識しながら、見通しをもって計画を立て、自他の役割を考えて、友達と協力し合って準備や活動に取り組んでいる。	①よりよい学級生活づくりのためにすすんで議題を考えたり、選んだりしている。 ②計画委員会の活動や話し合いの準備など、自主的に取り組もうとしている。 ③活動を振り返り、今後の集団活動に生かそうとしている。

3 学級の実態

(1) 児童の実態

学級編成をし、担任も替わった学級である。年度当初、自尊感情の低さが感じられた。学級活動アンケート(資料1)では、約5割の児童が「自分のよいところを分らない。約3割の児童が「学級のために自分は役立っていない。」と答えていた。そこで、毎日の帰りの会で「今日よかったこと」を発表する時間を設け、見付けた友達のよさを伝え合う活動を繰り返し行ってきた。また、各教科の学習では、ペアや小グループ活動を取り入れ、自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いて考えが広がったりできる経験を取り入れてきた。その結果、何事にも意欲的に挑戦しようとする児童が増えたり、自分のよさを積極的に学級全体に発信する児童も増えたりしてきている。また、みんなで団結して取り組む心地よさや、協力して目標を達成した時の喜びを多くの児童が実感している。2学期に実施した学級活動アンケート(資料2)では約9割の児童が「自分のよさが分かる。」「学級のために自分は役立っている。」と答えるようになった。

「学級目標」

- プラス言葉を伝えられる子
- ルールを守り、めりはりのある子
- 支え合い、助け合える子
- 分け隔てなく、みんなと仲良くできる子

学校の教育活動全般にわたり、「学級目標」の達成に向けた活動に重点をおいて年間を通して取り組んでいる。「学級目標」は、担任や保護者の思いを伝えてから児童の意見を出し合って全員の思いが入った言葉に決めたものであり、児童が学級で生活していく上での基盤となる。また、学級活動(1)の話し合い活動での議題や提案理由を考えるときの基ともなる。「学級目標」を基盤として、児童の学校生活がよりよいものとなるように活動をしている。

多くの集団活動を通して、個と個がつながり、自他のよさを認めながら学級の団結を深め、友達と協働することのよさや楽しさを実感できるようにしていきたい。そして、一人一人が学級の一員であることへの喜びを感じ、自分のよさをすすんで発揮することができる学級にしていきたい。

(2) 学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」についての実態

ア 話し合い活動

活動全体

「学級活動オリエンテーション」を4月に行い、学級活動(1)では「『学級の目標』の達成を目指し、みんなで団結した学級にするために、みんなで取り組みたいことをみんなで考え、話し合っ、決まったことをみんなで行う時間である。」と説明をした。自治的な活動の範囲外に関わること(個人情報やプライバシーの問題、相手を傷付けるような結果が予想される問題、教育課程の変更に関わる問題、校内のきまりや施設・設備の利用の変更などに関わる問題、金銭の徴収に関わる問題、健康・安全に関わる問題など)についても具体的な例を挙げて説明した。また、話し合い活動の基本的なルール(発言の仕方・学級会の流れ・話し合いの約束)について確認をした。学級会の時間の割り振りについては、話し合いの時間35分、振り返りの時間10分と説明した。児童は学級活動(1)である学級会の時間は、自分たちの時間であると意識し、事前の計画委員会を自分たちですすんで進めたり、議題について自分たちの力で話し合おうとしたりしている。学級活動アンケート(資料2)でも約9割の児童が話し合い活動に意欲をもち、自分の思いを周りに伝えることに心地よさを感じている。また、教師が価値付けた友達のよさを、自分に取り入れようとする前向きな児童も多くなっている。

議題は、教師が学期当初にどんなことを話し合いたいかわかりやすく児童にアンケートを取り、その中から順次どの議題案が現状の課題に対して相応しいかを帰りの会を利用し、司会グループが中心となって話し合っ、学級全体で決めている。しかし、児童の思いによっては、新しく提案された議題を行うこともある。

学級会の進行は司会グループである児童に任せ、担任は児童が自分たちの力で解決ができるように見守り、活動の様子を記録して終末の助言で取り上げている。しかし、話し合いが混乱していることや、自治的な活動の範囲を超えていることを自分たちで気付かない場合等は助言をし、人権上の配慮が必要な場合はその場で指導をしている。

発言については、話し合い活動を重ねることで、児童によって発言量に差はあるが、ほとんどの児童がすすんで発言できるようになった(資料2)。提案理由を意識して自分の考えの理由を発言することと、友達の意見とのつながりをもって話すことについては9割の児童ができています(資料2)。また、司会グループの進行を助ける発言や、学級一人一人の意見を大切にすることを意識した発言は、3割の児童ができる。現在、多様な意見のよさをできるだけ生かそうと考え、意見を変化させたり、よりよく改善したりする発言が増えてきている。その場合は、教師が終末の助言で取り上げ、価値付けて学級全体に共有している。

司会グループ・計画委員会

司会グループ(司会2名、黒板記録2名、ノートまたはタブレット記録1名)は、年度当初に取った役割の希望をもとにグループ分けを行い、輪番制で行っている。自分の司会グループの順番が回ってくることを楽しみにしている児童が多い。

司会グループは計画委員会を開き、それぞれの仕事内容の確認や学級会シートの作成、黒板の使い方、当日の進め方について話し合っている。司会については、計画委員会で話し合ったことを基にして自分なりに話し合いの進め方を「司会シート」にまとめて学級会に臨んだり、学級会中に話し合っていることをメモしながら学級会を進めたりしている。学級会前日までには司会グループが声を掛け、前回の活動を振り返り、議題、提案理由、話し合いのめあてに沿って、議題に対する意見を学級会シートに入力して、全員が自分の考えや思いをしっかりとをもって学級会に臨むことができるように取り組んでいる。

初めての学級会では、黒板に賛成・反対の理由を全てチョークで書いていたが、後方の児童には見にくくなってしまった。そこで、次の学級会からは理由を短冊にキーワード化して書く工夫を行っている。また、今何を話し合っているか、話を聞いているだけでは分からないという課題が出たため、黒板やICT機器を活用して話し合いの流れを視覚化する工夫にも取り組んでいる。

学級会後には、次の司会グループへの引き継ぎが行われ、よかった点や改善点を出し合い、次の学級会に生かすことができるように話し合っている。また、前回の司会グループが継続して次の学級会の進め方を一緒に考えたり、準備を手伝ったりしている場面も見られる。

実践後には、「今回の学級会や実践」が「次の学級会や実践」に生かされるように、司会グループが休み時間等を利用して、振り返り新聞を書いている。振り返り新聞には、「議題」「提案理由」「学級会のよかった点と改善点」「一連の活動のよかった点と改善点」を記載している。児童が掲示された振り返り新聞を見て、今後の学級会や実践に生かすことができるようにしている。

合意形成の仕方

合意形成については、学級活動オリエンテーションのときに、安易な多数決は「それぞれの意見の理由や、全員が納得しているかが分からない」「多くの人の意見が採用されない」ことについて説明をした。また、多数決で決まったことは、「たとえ一票差であっても全員で協力して実践すること」と指導をしている。現在のところ、多数決は一度も行われていない。初めは、賛成・反対意見を出し合うことに時間を費やし、賛成意見の数でどれか一つの意見に決めようとしていてなかなか折り合うことができない様子が見られた。しかし、それでは「一部の人の意見しか採用されないこと」に気付くようにし、「みんなの意見のよさをできるだけ生かすことができるように話し合うこと」を念頭において活動できるように問い掛けている。その結果、互いの意見を縮小して合わせたり、順番に行ったりするなどの意見が出され、互いに折り合いながら合意形成をするようになってきている。また、反対意見や不安に思った意見が出されたときには、周りがその解決策を考えたり、条件を付けて賛成したり、採用されなかった意見は他の機会や係活動の時間に行ったりするなど、少数意見も大切に全員が納得した上で合意形成をするようになってきている。

振り返り

学級会シートについては、振り返ったことをその後の実践や次の学級会でめあてに生かして活動できるように、1枚のシートに学級会と実践のめあてや振り返りの全てを書くことができるようにしている。身に付けさせたい力を評価するため、振り返りの欄に項目を示し、自己評価できるようにしている。児童には、学級会や実践前にはめあてを書き、学級会や実践後には振り返りを書く習慣が身に付いている。

終末の助言では、豊かな人間関係を育んだりよりよい話し合いをしたりすることができるように、児童の振り返りを生かしながら具体的な事例と名前を挙げて活動のよさを認め、価値付けている。また、課題については、課題そのものを指摘するのではなく、話し合いの場面を振り返らせ、「〇〇の時どう思った?」「どうしたらよかったかな?」のように児童に問い掛け、児童が自分なりの考えを見付け出すことができるように問い掛けて助言をしている。その結果、児童は新しい課題に出会った時にも、教師の答えを待つのではなく、自分なりに考えをもち、自ら課題解決に向かう姿勢が見られるようになってきている。

更に児童の言動を価値付けるために「自分たちの話し合いや活動をよりよくする」、「自分たちの人間関係をよりよくする」言動を学級会や学級会カード等の中から取り上げ、後日「ことバンク」として短冊に記入し、教室に掲示をしている。視覚化することにより、児童は「ことバンク」を意識し、学級会で生かしながら話し合いを進められるようになってきている。「ことバンク」として取り上げたことを定着できるように、終末の助言等で達成できたカードの項目を明示して称賛し、達成できなかったことは問い掛けて助言をして気付くようにしている。

イ 係活動

係を決める際、当番活動とは「学級の決まった仕事やみんなで分担して行うことで、ないとみんなが困るもの。」であり、係活動とは「学級をもっと楽しくするもの、もっとよりよくするためのもので、みんなで工夫して行うもの。」であると、当番活動と係活動の違いについて確認をした。成立条件としては3人以上で行うことも確認をした。

係決定後、「友達と協力して学級を楽しく、よりよくする活動をしよう」「活動している自分たちも楽しめるようにしよう」というめあてをもって係活動を始めた。めあてに合った活動をしている係を見付けると、帰りの会で具体的な事例を挙げて称賛したり、活動の様子を学級通信で紹介したりしてきた。その結果、みんなで楽しむことができる活動を企画し、実行する係が増えていった。更にそれぞれの係のよさを次の活動に生かすことができるように、定期的に「ありがとうカード」を使って児童同士で互いの係のよさを認め合う活動を加えて行っている。

児童が試行錯誤しながら創意工夫をする中で、他の係と連携してイベントを行う係が出てくるなど、多くの新しい取組も見られている。朝や帰りの会、休み時間などでみんなに発表したい、イベントを行いたいと申し出る係が多く、活発に活動している。日々の係活動を楽しみにしている。

【2学期の係】

係名	人数	活動内容
誕生日係	4	友達の誕生日を祝う。歌を歌って、牛乳で乾杯をする。プレゼントをする。
レク係	5	オリジナルの室内遊びをつくって、みんなで遊ぶ。
劇係	7	1分間の劇をつくって披露する。
お面係	5	いろいろなお面をつくって、プレゼントする。
掲示係	6	みんなの気持ちが明るくなる掲示を作る。
工作係	3	図工の授業で学んだ方法を生かして、作品を作る。
下敷き係	4	みんなにオリジナルの下敷きを作成する。

ウ 集会活動

現在まで3回の集会活動を行った。第1回「仲良し会をしよう」では、学級全員が仲良く、楽しんで初めての集会を行うことができた。児童からは「仲が深まった。」「またやりたい。」「次は〇〇したい。」など、次の集会活動への意欲も高まった。しかし、役割分担をしっかりと決めていなかったため、集会前日に急いで決めて準備することになった。児童からは、「全員で役割分担をして、事前準備をしっかりとしてから集会に臨みたい。」という課題が出て、学級全体で共有して次の活動に生かしていくこととなった。

第2回「オリジナル〇〇中をしよう」では、全員が提案理由を意識して活動することができた。また、前回の課題であった役割分担も事前に全員で行い、準備もしっかりとできて臨むことができた。しかし、決めた工夫の数が多くやり切れないことがあった。実践の見通しをもって話し合うことが大切であると問い掛けながら助言をした。

第3回「夏祭りをしよう」では、今までの活動経験を生かして実践活動をすることができたことを称賛した。話し合いから実践までの期間が空いたことにより、共通理解ができていない部分があった。そこで次回からは、実践前日に学級全員で確認する時間を取るようになった。

児童は、自分たちで話し合っただけで計画したことを実行できることに喜びを感じている。毎回の実践で生まれた課題も、前向きに捉え、次の実践をよりよいものにしていこうと考えている。友達と共に団結して活動することのよさや楽しさ、みんなで一つのことをやり遂げた時の嬉しさを実感している。

4 班テーマとの関連

(1) 目指す児童像

班テーマ「みんなでつくり上げる学級活動」を受けて、以下のように考察をした。

まず「みんなで」とは、「全員が考え、全員が参加する。」「一人一人の気持ち、互いの存在を大切にする。」「全員が同じ方向を向いて活動する。」「共に協力し、支え合う。」「自分の役割を最後まで果たす。」と捉えた。

次に「つくり上げる」とは、「一つのことをやり遂げる、生み出す。」「自分たちの課題を見いだす。」「課題を試行錯誤しながら解決する。」「課題を乗り越え、達成感を感じられる。」「活動する中で、自分の成長や友達によさに気付く。」と捉えた。

このような学級活動を展開していくために、担任や保護者の思いを伝えてから児童の意見を出し合っただけで決めた「学級目標」を基盤として活動していきたい。自分たちで決めた「学級目標」は、初めて学級のみんなで作ったものである。この「学級目標」の達成を目指し、学級全員で同じ方向を向き、一致団結して日々の生活や様々な行事に取り組んでいく。その中で互いのよさや個性を知り、尊重し合える人間関係をつくっていききたい。友達と協力しながら学級の一員としての役割を果たし、みんなで何事も一生懸命取り組んでいくことができる児童、学級になってほしいと願っている。

以上のことから目指す児童像を次のように設定した。

目指す児童像

- | | |
|----------------------------------|------------|
| ◇友達と仲良く、協力し合いながら活動することのよさに気付ける子 | (知識・技能) |
| ◇「学級の目標」の達成に向けて、集団の一員として役割を果たせる子 | (思考・判断・表現) |
| ◇すすんで互いのよさや個性を認め、尊重しようとする子 | (主体的態度) |

(2) 班テーマに迫るための手だて

手だて1 学級活動オリエンテーションをする。

ア 学級活動を自主的・実践的な活動にするために、どのような活動をするのか説明をする。

イ 自治的な活動の範囲外に関わることについて具体的な例を挙げて説明する。

ウ 話し合い活動の基本的なルール(発言の仕方・学級会の流れ・話し合いの約束)について確認をする。

手だて2 事前の活動を工夫する。

ア 児童が自分たちで学級会を進めていくことができるように、計画委員会でそれぞれの仕事内容や黒板の使い方、話し合いの進め方について、司会グループに問い掛けながら助言をしていく。

イ 合意形成の拠り所となる提案理由を明確化するために、提案理由をキーワード化した短冊を作成する。

ウ 学級全員が共通認識をもって話し合いに参加できるようにするために、学級会前に司会グループが議題や提案理由、話し合いの進め方について学級全員に伝える時間を設ける。

手だて3 「学級会シート」を活用する。

ア 事前に一人一人が考えをもち、自信をもって学級会に臨むことができるように、学級会シートに自分の考えとその理由を書く欄を設ける。

イ 次の話し合いや実践活動に生かすことができるように、学級会シートに話し合いを通して気付いたことや、自分や友達のがよかったところなどの振り返りを書く欄を設ける。

ウ 互いの思いを共有できるように、学級会で振り返りを発表する場を設ける。

手だて4 ICT機器を活用する。

- ア 学級全体で共通理解をしながら話し合いを進めていくことができるように、必要な事柄は児童が学習者用端末に入力し、大型モニターに映し出す。
- イ 場面を思い返しやすいうようにするために、学級会や実践の様子を写真や映像で記録しておき、終末の助言や振り返り新聞等で活用する。

手だて5 児童の思考を視覚化する。

- ア 一人一人の意見の理由が分かるようにするために、提案理由をキーワード化して黒板に掲示する。
- イ 今話し合っている内容やこれまでの話し合いの流れを共通理解しながら話し合えるようにするために、改善案や意見の変化を短冊に書いたり、記号で示したりして黒板に残していく。

手だて6 終末の助言を工夫する。

- ア これからの活動に対する意欲を高め、話し合いをよりよくする児童の言動を定着させるために、具体的な事例と名前を挙げて活動のよさを認め、価値付ける。
- イ 自分たちでつくる学級会にするために、課題そのものを指摘するのではなく、話し合いの場面を振り返らせ、児童に問い掛け、児童が考え、解決方法や改善策を見付け出すことができるようにする。

手だて7 ことバンクを作成し、掲示する。

- ア 児童の言動を価値付けるために、「自分たちの話し合いや活動をよりよくする」「自分たちの人間関係をよりよくする」言動を学級会や振り返り等の児童の活動の中から取り上げ、短冊に書く。
- イ 児童が「ことバンク」を見ながら話し合い活動を進めることができるように、短冊を教室内に掲示する。

手だて8 振り返り新聞に一連の活動をまとめる。

- ア 今回の学級会から実践までの一連の活動が、次の活動に生かされるように、司会グループが振り返りを新聞にまとめる。
- イ 児童が掲示された振り返り新聞を見て、今後の学級会や実践に生かすことができるように、教室に掲示する。

5 議題選定の理由

児童は4年生になってみんなで決めた「学級目標」の達成に向けて、毎月の振り返りを生かしながら生活している。「分け隔てなく、みんなと仲良くできる子」を特に意識して生活しており、初めての学級会の議題も「仲良し会をしよう」であった。その意識は友達同士以外でも感じられ、学年の先生や専科の先生方などにも自分たちから積極的に挨拶をしたり話し掛けたりすることができている。○月からは本学級に教育実習生が来ている。後一週間でお別れとなる。最後にみんなの感謝の気持ちを伝えたいということになった。そこで、帰りの会で学級全員で話し合い、「サプライズパーティーをしよう」を話し合うこととなった。

提案理由や話し合いのめあてをもとに、自分の考えを友達に分かりやすく伝え、友達の意見を聞いて自分の考えを広げながら話し合えることを期待したい。そして、一人一人の考えのそれぞれのよさを大切に、それを生かしながら合意形成してほしいと願っている。

6 活動計画と評価計画

日時	児童の活動		指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
	計画委員会の活動	学級全体の活動		
○/○(○) 帰りの会	・議題決めの進行をする。	・議題案の中から学級全体で話し合い、議題を決定する。	・学級全体で提案理由を深め、キーワード化する。	ウー① よりよい学級生活づくりのためにすすんで議題を考えたり、選んだりしている。 【主体的態度】 〈観察・記録〉
○/○(○) 休み時間	・「第1回計画委員会」前回の司会グループとの引継ぎ、また役割分担と仕事内容の確認をする。	・議題に対する意見を事前に考え、「意見カード」に書いて教室に掲示する。	・意見カードにできるだけ多くの意見を書かせる。 ・司会グループの仕事内容と話し合いの進め方、学級会シートの作成(提案理由の明確化、話し合いのめあて・話し合うことの決定等)について確認する。	イー① 議題や提案理由に合った意見を考え、書いている。 【思考・判断・表現】 〈観察・記録・意見カード〉 アー① 話し合いの準備を計画的に進める方法について理解している。 【知識・技能】 〈観察・記録〉

○/○(○) 休み時間	<ul style="list-style-type: none"> 「第2回計画委員会」学級会シートの作成、話し合いの進め方について話し合う。司会シートを作成する。 		<ul style="list-style-type: none"> 当日の話し合いの進め方について、問い掛けて助言をしながら児童の発想を広げる。 	<p>ウー② 計画委員会の活動や話し合いの準備など、自主的に取り組もうとしている。 【主体的態度】 〈観察・記録〉</p>
帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> 議題、提案理由、話し合いのめあて、話し合うことの説明をする。 話し合いの進め方について、提案がある人はいないか学級全体に聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見カードを基に、前回の振り返りを踏まえ、一人一人が学級会シートに自分の考えを入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由やめあてに沿って、自分の意見を理由まで考え、入力することができるように助言をする。 新しいことバンクを紹介する。 	<p>イー② 議題や提案理由を意識して自分の考えをもち、話し合いの活動計画について考え、準備している。 【思考・判断・表現】 〈観察・記録・学級会シート〉</p>
○/○(○) 休み時間	<ul style="list-style-type: none"> 「第3回計画委員会」一人一人の考えを短冊に書く。黒板の書き方の確認、司会シートや学級会シートをもとに話し合いの流れの予想、進め方の確認をする。 		<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって話し合いを進めることができるように助言をする。 	<p>アー② 計画的な話し合いの進め方やまとめ方について理解している。 【知識・技能】 〈観察・記録・司会シート〉</p>
○/○(○) 4時間目 本時	<ul style="list-style-type: none"> 「第3回学級会」多様な意見のよさを生かして話し合いをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な意見のよさを生かして話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の言動の中から、具体的な事実や名前を挙げて称賛する。 次回に向けた本時の課題について、問い掛けて助言をして気付くことができるようにする。 	<p>イー③ 今までの活動経験を踏まえながら、自分たちの思いを伝えるためにどのような工夫がよいかを考えたり、発言したりしている。 【思考・判断・表現】 〈観察・記録・学級会カード〉</p> <p>イー④ 多くの工夫の中から、多様な意見のよさを生かしながら話し合いを進めている。 【思考・判断・表現】 〈観察・記録・学級会カード〉</p>
○/○(○) ～○(○) 休み時間	<ul style="list-style-type: none"> 議題、提案理由、学級会の振り返りを振り返り新聞に事前に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いで決めたことをもとに準備をする。前回の反省を踏まえ、事前に準備をしっかりと行う 	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由やめあて、「学級の目標」の達成につながる活動になるように助言をする。 	<p>イー⑤ めあてを意識しながら、見通しをもって計画を立て、自他の役割を考えて、友達と協力し合って準備や活動に取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 〈観察・記録〉</p>
○/○(○) 5校時		<ul style="list-style-type: none"> 話し合いで決めたことを行う。終了後、振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践の振り返りをし、よかった点・改善点を次の一連の活動に生かすことができるように助言をする。 	<p>アー③ 話し合いで決定したことについてみんなで実践することの意義や、方法について理解している。 【知識・技能】 〈観察・記録・学級会カード〉</p>
○/○(○) ～ 休み時間	<ul style="list-style-type: none"> 活動の振り返りをもとに、振り返り新聞を作成し、掲示する。 		<ul style="list-style-type: none"> よかった点や改善点を見つけて書き、次の活動に生かすことができるようにする。 活動全体や学級会シートをもとにことバンクを作成する。 	<p>アー④ 集団活動を通して、友達と共に活動することの楽しさ、よさに気付いている。 【知識・技能】 〈観察・記録・学級会カード〉</p> <p>ウー③ 活動を振り返り、今後の集団活動に生かそうとしている。 【主体的態度】 〈観察・記録・学級会カード〉</p>

7 本時の展開

(1) 議題 「サプライズパーティーをしよう」

(2) ねらい

今までの活動経験を踏まえ、多様な意見のよさを生かしながら話し合いを進める。

(3) 児童の活動計画

別紙参照

(4) 教師の指導計画

活動内容	●指導上の留意点 ◆評価
1 始めの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 話し合いのめあての確認 6 決まっていることの確認 7 話し合い	議題 …「サプライズパーティーをしよう」 提案理由…〇〇先生と4週間過ごしてきた。お別れする前に、感謝の思いを伝えて〇〇先生を喜ばせたいから。そして、更に団結したクラスにしていきたいから。 めあて …みんなの思いが伝わる工夫に決めよう。 多くの意見のよさを生かそう。
(1) どのような工夫をするか。 (2) 役割分担について	●自立的な活動の範囲外に自分たちで気付かないなど、必要な場合は助言をする。特に人権上配慮が必要な場合は指導をする。 ●児童の活動の様子(発言・行動・つぶやき)を記録し、終末の助言で取り上げる。 ※取り上げる内容 ・前回から成長が見られた言動 ・司会グループの工夫、努力 ・友達、学級全体のことを考えた言動 ・話し合いをまとめるような建設的な発言 ・議題、提案理由、めあてに戻った発言 ・自分のめあてや前回の振り返りを生かした発言 ・次への成長のために気付かせたいこと ・実践、生活への意欲付け ◆今までの活動経験を踏まえながら、自分たちの思いを伝えるためにどのような工夫がよいかを考えたり、発言したりしている。 【思考・判断・表現】 (観察・記録・学級会カード) ◆多くの工夫の中から、多様な意見のよさを生かしながら話し合いを進めている。 【思考・判断・表現】 (観察・記録・学級会カード)
8 決まったことの発表 9 振り返り	●今までの振り返りを踏まえ、自分や友達のよかったところを振り返るよう助言をする。 ●次の学級会に向けて、改善点を書くようにする。 ●次の実践に向けて、自分のめあてを書くようにする。
10 先生の話 11 終わりの言葉	○本時の児童の言動の中から、具体的な事実や名前を挙げて称賛する。 ○次回に向けた本時の課題について、問い掛けて助言をして気付くことができるようにする。 ○これからの活動への意欲付けをする。 (上記「※取り上げる内容」の項目より)

(5) 板書計画

別紙参照

8 資料

【資料1 学級活動アンケート（1学期結果）】
別紙参照

【資料2 学級活動アンケート（2学期結果）】
別紙参照

【資料3 今までの話し合い活動】

月日	話し合い活動	○議題名 ・児童の様子 ◇教師の指導
○/○	第1回 学級会	○「仲良し会をしよう」 ・司会が話をまとめながら、自分たちの力で話し合いを進めることができた。 ・反対意見に解決策を出す児童がいた。 ・黒板記録が、賛成反対の理由をチョークで全て書いてくれていたが、見つらなかった。 ◇自分たちの力で話し合えたことを称賛した。 ◇一人一人の意見を大切に生かそうと話し合えた司会と児童を称賛した。 ◇誰もが見やすい黒板になるよう、児童に問い掛けながら様々な黒板の書き方のアイデアを出させた。
○/○	第2回 学級会	○「オリジナル〇〇中をしよう」 ・意見の理由をキーワード化して短冊に書いて貼ることで、黒板が見やすくなった。 ・前回の集会活動の反省を生かして発言する児童がいた。 ・話している内容が解決しないまま次の話題を話し合っていた。 ◇黒板記録の誰にも見やすいように考えた工夫を称賛した。 ◇前回の振り返りを生かして話し合えたことを称賛した。 ◇一人一人の意見を大切に生かす、話をそらさないようにすることの大切さに気付かせた。
○/○	第3回 学級会	○「夏祭りをしよう」 ・意見の変化や話し合いの流れを黒板記録が短冊に書いて貼っていた。 ・いつも掲示する議題や提案理由などはICT機器を活用してモニターに映し出した。 ・話し合いが停滞することがあった。 ◇話し合いの流れを視覚化することで、何を話し合っているか分かりやすくなったことを称賛した。 ◇ICT機器を活用することで、準備時間を短縮できたり黒板を広く伝えることができたことを価値付けた。 ◇話し合いが停滞したときや意見が出なくなったときはどうすればよいか問い掛け、小グループで話し合うことになった。

【資料4 今までの集会活動】

月日	集会名	活動内容	○よかった点 ●改善点 ◇教師の指導
○/○	仲良し会 をしよう	・クラスの仲が深まる遊びをした。 ・ひめドッジ パイプライン	○自分たちで決めた遊びを自分たちで行い、みんなで仲良く楽しむことができた。達成感を味わった。 ●役割分担をしっかりとっておらず、事前の準備が足りなかった。 ◇全員で役割を分担し、事前準備をしっかりと行うことの大切さを学級全体で共有した。
○/○	オリジナル 〇〇中 をしよう	・自分たちで工夫を考えたオリジナルの遊びを行った。	○役割分担を事前に全員で行い、準備もしっかりとできて臨むことができた。 ●決めた工夫の数が多くやり切れないことがあった。 ◇実践の見通しをもって話し合うことが大切であると確認した。
○/○	夏祭り をしよう		○今までの活動経験を生かして実践活動をすることができたことを称賛した。 ●話し合いから実践までの期間が空いたことにより、ルールが共通理解できていない部分があった。 ◇どうすればよいか問い掛け、次回からは、実践前日に学級全員で確認する時間を取るようになった。

【資料5 ことバンク】

No.	月日	『ことバンク』 ○フロア ●司会 ☆共通理解したこと
1		●～について意見のある人はいますか？【みんなへの投げ掛け】
2		○提案理由にあるように、～だからです。
3		○～さんと似ていて～です。【共通点を見付ける。】
4		○～について分からないので教えてください。
5		●～について説明できる人はいますか？
6		○～さん分かりましたか？【確認】
7		●～に決めていいですか？反対の人はいますか？【嫌な人はいないか再度確認】
8		●～は下げてもいいですか？賛成していた人もいいですか？【賛成していた人へ再度確認】
9		○～すれば、いいです。【条件付き賛成】
10		○～した方がいいと思います。（～すればもっとよくなると思います。）【改善策】
11		○～さんと同じで、～だと思えます。【よい意見への同意】
12		○～さんの話を聞いて思ったのですが、【人の意見とのつながり】
13		○～さんの反対意見の解決策なのですが、【解決策】
14		●～についてみなさんはどう思いますか？
15		●～にするか～にするか。それに対して意見はありますか？【司会からの提案】
16		○～は別の機会(他の時間・係活動・クラス遊び)でもできると思います。
17		○～の意見に～もプラスするとより多くの意見が生かせると思います。
18		●～の意見に～も入れていいですか？
19		●どちらの意見も多いので、たくさんの意見を生かせる～にしていいですか？【司会がまとめる】
20		☆「もしも～だったら」は言わない。
21		☆話をそらさない。(話の流れを意識する。)
22		☆自分のためではなく、みんなのために意見を言う。
23		☆友達のことを大切にします。
24		☆勇気をもって、違うときは違うと言う。
25		☆副司会は発言数の少ない人から指す。
26		☆黒板の書き方を工夫する。(理由をキーワードで書く。短冊の間を空ける。理由の下に磁石。)
27		○～より～の方が～だからいいと思います。【違いを比べる】
28		○～と～を合わせた方がいいです。【合体】
29		○～さんの意見も生かせるし、～さんの意見も生かせるので、～がよいです。
30		○～すれば、提案理由の～も達成できると思います。
31		●～は提案理由に合っているので決めていいですか？
32		○～はどうになりましたか？【確認】
33		○～ということではないですか？【友達の意見を言い換える。】
34		○前回～だったから～した方がいいです。【前回の反省を生かす。】
35		○では、～したらどうですか？【解決に向けた提案。】
36		○しないのではなく、次回に取っておくといいと思います。【次回優先】
37		●では、～ということにします。いいですか？反対の人はいますか？
28		☆司会は意見をまとめる。同じことが続いたらみんなにいいか聞く。
39		☆話している話題が解決したら次の話題を話す。話を飛ばさない。
40		☆よい案が浮かんだらみんなに提案する。
41		☆黒板記録は、今話していることについて、短冊を使ってみんなに見せる。
42		☆迷ったらやめる。
43		☆意見の多さではなく、より提案理由にあっているものに決める。

【資料6 振り返り新聞】

別紙参照

【資料7 学級会シート】

別紙参照

【資料8 司会シート】

別紙参照